様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２３５０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２３１７

研究課題名（和文）ウィリアム・カムデンの系譜におけるブリティッシュアイデンティティの探究と成立

研究課題名（英文）Inquiries into and Establishment of British Identity by William Camden and His Successors

研究代表者
高野　美千代（Takano, Michiyo）

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：１０２８９８１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,700,000円

研究成果の概要（和文）：好古学者ウィリアム・カムデンの系譜を17世紀末まで時代を追って検証し、近世英国における歴史記述がいかに発展したのか、サブジャンルを分析し、考究した。現地調査での文献資料収集、国際的研究ネットワークの構築と共同研究、国際研究集会の開催など、時間をかけて慎重に研究を遂行した。歴史補助学の要素を手掛かりに、作品におけるアイデンティティ探求の方法を具体的に検証し、近世英国における歴史記述・過去考察の発展の一端を解明することができた。また、近世好古学という英文学の研究領域の開拓と、それに関する知識・成果の共有をひとつの目的として国際的学際的研究を展開し、当初設定した目標を達成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究課題においては、日本国内でほぼ未踏の領域であった近世英国好古学研究を主なテーマとして扱い、その成果を日英二カ国語で公開することにより、英文学研究の新たな可能性を提案することができた。また、国際的かつ学際的なネットワークにより研究を遂行することが成果を上げるために必須と考え、歴史研究者との協働と海外研究者との共同研究を実施した。これによって、本研究課題においては取り扱う文献資料の幅を広げ、理解を深めることに成功した。国内で開催した国際研究集会では、研究者以外の参加も呼び掛け、広く社会に成果を公表し還元することに努めた。

研究成果の概要（英文）：We have examined the antiquarian writings by William Camden,an early modern English antiquary,and by his successors,and analyzed their methods of antiquarian research. We have also paid special attention to the subgenres, or the subjects of auxiliary sceinces of history,to see how antiquarian writings developed in early modern England. We have successfully collected essential research materials, established an international research network, and held international research meetings, and we have achieved the goals we set for ourinternational and interdisciplinary research project with the aim of promoting the field of early modern antiquarianism in English literary studies in Japan, and sharing knowledge related to this research field.

研究分野：英文学、英国文化、書物史

キーワード：William Camden　William Dugdale　好古学　antiquarianism　Wenceslaus Hollar

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本課題の共同研究者である英国ヨーク大学グレアム・パリー（Graham Parry）による研究書 *The Trophies of Time*（Oxford University Press, 1996）が出版されてから、カムデンに始まる 17 世紀英国好古学文献の研究は徐々に世界的に浸透し、本格的に進展してきた。パリーはカムデン以降の複数の好古学者、ロバート・コトン、ジョン・セルデン、ヘンリー・スペルマン、ジェイムズ・アッシャーなど各々に１章を費やして個別作品の特徴、歴史記述の手法と思想的背景を論じた。その後、英国スターリング大学アンガス・ヴァイン（Angus Vine）を中心とする新進の研究者の手により、これまで情報が不足していた事項を含め新たな研究が提示されており、作家作品の綿密な分析が世界的に進行しつつある。21 世紀になって好古学研究文献や個別作家への関心が高まり、エリザベス朝から 17 世紀末までにわたる研究がつぎつぎと発表されているため、今後ますます世界的に注目され発展する英文学の研究領域であるとみなすことができる。その一方で、日本国内で英国好古学文献の研究はほとんど行われてこなかったため、本研究においては、日本国内では初めての系統的な研究を進めようと計画した。

PI と研究分担者、海外研究協力者は、長年にわたり近世英国の好古学に関連する研究活動を行ってきた。佐藤は歴史家として、高野は英国文学・書物史研究のために、毎年のように国際的な調査や学術交流を進めながら、近世歴史記述の伝統と変遷について、カムデンやその後継者の作品を含め研究してきた。個別に行った研究成果を持ち寄り、分かち合ううちに、相互の研究を補完しながら一つの研究プロジェクトを遂行し、研究成果をまとめたいと考えるようになった。近世英国好古学は、現存する文献資料が豊富でありながら、日本ではほとんど研究がなされていない作家・作品が未だ極めて多い。ゆえに、これは単独研究よりも、むしろ共同研究によって画期的な飛躍が見込まれる研究領域だと確信した。研究開始当初からさかのぼって２年間以上、高野と佐藤は本研究課題について構想を練り、問題点の洗い出しや国内外の研究ネットワークの構築を行ってきた。事前準備として、本分野の先駆的研究者であるパリー、ヴァイン両氏との面会や意見交換、プロジェクトの協議も開始していた。４年間の計画で共同研究を進め、毎年研究成果を国内外に発信しつつ、最終的には論文集を出版する段階に到達することを目標とした。

２．研究の目的

本研究の主要な目的は、英文学における新たな研究領域の開拓と知識・成果の共有である。具体的に言えば、近世英国の好古学者ウィリアム・カムデン(1551－1623)の系譜を 17 世紀末まで時代を追って検証し、学際的かつ国際的な共同研究によって、近世英国における歴史記述がいかに発展したのか、サブジャンルを分析し、考究することである。カムデンは、西欧における従来の歴史研究から距離を置くようにして、国の歴史、人間の歴史を理解する新たな方法を提示した。原史料を収集・記録するというやり方で、ブリティッシュアイデンティティを探究する作品を執筆し、英文学に地誌や古遺物研究／好古学研究という新たな文学形態を定着させたのである。本研究では、近世英文学におけるカムデンの系譜を、未踏の分野であるサブジャンルを含めて具体的に検証し、近世英国における歴史記述・過去考察の発展の一端を解明するものとする。

３．研究の方法

本研究課題では、カムデンとカムデンの後継者による好古学研究の手法・歴史補助学の要素をとくに詳細に扱い、国際的学際的研究ネットワークによって分析を進める。本研究ではこれまで研究代表者と分担者が長期にわたり個別に進めてきた近世英国の歴史記述と好古学文献の展開に関する研究を一体化させて、17 世紀末までの英文学におけるカムデンの系譜を考究する。初年度にはまずカムデンの著作全体について精密な検討を行い、つづいて研究を深めることになるカムデンの後継者とも言うべき作家群とその作品を歴史補助学の観点から順に分析する。年度ごとに中心となるテーマを定め、それを軸に考究を進める。毎年複数回の勉強会を開くほか、先進的研究を行っている海外研究者を招聘して国際研究集会を開催し、広く内外に本研究の学術的意義を問い、研究ネットワークを拡大していく。各年度の主要テーマについては、国内での研究を基に海外で調査研究を行い、常に国際的研究の動向や先進的視野を念頭に研究交流を実施する。研究の成果は積極的に発表することとした。

４．研究成果

本研究は国際的な共同研究によって大きな進歩が期待できるものであるため、国際研究集会

を以下のように開催し、研究者間で積極的な意見交換を実施した。

第１回国際研究集会：William Camden and Early Modern Antiquarianism
日時: 2018 年 1 月 8 日(月)
会場: 山梨県立図書館
講師：Angus Vine (University of Stirling, UK)、佐藤正幸（山梨大学)、 曽村充利（法政大学)、江藤裕之（東北大学)、 高野美千代（山梨県立大学)

第２回国際研究集会：近世英国の好古学者の研究手法（東北大学国際文化研究科との共催）
日時：2019 年 5 月 24 日（金）
会場：東北大学（仙台市）
講師：Angus Vine、高野美千代

第３回国際研究集会：Varieties of Antiquarian Studies in Early Modern England
日時：2019 年 5 月 26 日（日）
場所：山梨県立図書館
講師： Angus Vine、佐藤正幸、佐藤幸治（翻訳家）

第４回国際研究集会：カムデンの系譜におけるブリティッシュアイデンティティの探究と成立
日時：2022 年 1 月 28 日(金)オンライン開催
講師：Graham Parry (University of York, UK)、佐藤正幸、Angus Vine、高野美千代

また、国際ジャーナル *The Seventeenth Century* に Graham Parry 教授と高野による国際共著論文を投稿し、掲載された。オンライン版が先に（2019 年)、追って印刷版が 2020 年に公刊されたが、とくに印刷版が出されたあとは反響があり、本課題で扱うテーマについて国際的に認知されたことを実感した。

研究期間を締めくくる意味での最終的な成果は、2023 年 5 月の日本英文学会第 95 回大会においてシンポジアムという形で発表することができた。これには、本研究課題の研究グループ 4 名（佐藤・曽村・Vine・高野）が登壇し、おそらく本邦初の英国好古学・歴史記述をテーマとするシンポジアムを開催することとなった。このシンポジウムでは、文学研究者と歴史研究者による学際的国際的視点から、17 世紀英国におけるナショナルアイデンティティそしてローカルアイデンティティの探求が、好古学研究によっていかに展開したのか、具体的な方法を検討することとした。中世からの伝説に基づいた歴史から脱却しようとしたウィリアム・カムデンが、実際に古文書や遺跡を調査して過去を復元しようと試みたこと、地誌というジャンルを導入したこと、そしてその影響下にある好古学者たちが、カムデンによる研究方法を引き継ぐようにしてブリティッシュアイデンティティを探求し、確立しようとしたことをひとつの大きな共通テーマとして扱った。近世ヨーロッパにおける歴史記述および好古学研究が英国に与えた影響から考察を始め、好古学研究方法の例として、マイケル・ドレイトンの長編詩 *Poly Olbion* におけるコログラフィー、アイザック・ウォルトンを中心とする伝記文学、紋章官ウィリアム・ダグデールによる系譜学や碑文研究をテーマとして、17 世紀英国好古学研究の目的と成果を提示した。

各年度の研究成果概要は以下の通りである。
(1)研究初年度にあたる 2017 年度は、ウィリアム・カムデン研究を中心にプロジェクト全体の核となる部分を再検討し、2 年目以降の研究の基礎作りを行うことを意図した。
そのため、国際的な研究ネットワークの構築を行い、研究交流を積極的に実施することとした。
成果としては
①夏季休暇を利用して、近世英国好古学研究の第一人者である英国ヨーク大学グレアム・パリー名誉教授との共同研究および英国での文献資料調査を実施した。パリー教授からはカムデンおよびカムデンの系譜にある好古学者の文献について専門的知見を得た。英国では、稀覯本専門店の助言を得ながら、本プロジェクトを進めるのに不可欠な貴重文献資料を入手することもできた。
②近世イタリア好古学研究の権威であるエドゥアルド・トルタローロ博士（イタリア東ピエモンテ大学）を招聘し、研究交流を行った。そして、歴史学者ならではの広い視点からイタリアを中心とするヨーロッパ大陸の歴史・好古学研究・文献資料にアプローチする研究手法を学び、近世イタリアとイギリスにおける好古学・歴史研究の目的をテーマに議論・意見交換をした。
③若手好古学研究家として著名なアンガス・ヴァイン博士（英国スターリング大学）を招聘し、研究交流を行った。2018 年 1 月には、ヴァイン氏をメインスピーカーに迎えて、国際研究集会を開催した。ヴァイン氏からはカムデンの新たな一面に関する研究論文を発表してもらい、研究代表者・研究分担者その他２名の日本人研究者が論考の発表を行い、貴重な国際研究交流の機会を得ることができた。

(2)2 年目となる 2018 年度は、研究協力者と意見交換をしながら、歴史補助学の各領域に引き続き注目しながら研究を展開した。国際的な研究ネットワークによる研究交流を積極的に実施し、

国内においても研究分担者と定期的に面会し、相互に研究報告を行った。成果としては
①英国ヨーク大学グレアム・パリー名誉教授との共同研究および英国での文献資料調査を実施した。カムデンの後継者として代表的な存在であるアンティクエリーのウィリアム・ダグデールの著作とその背景、版画家ウェンセスラウス・ホラーの作品を挿画に取り入れた意義について考察を深め、パリー教授との共著論文を国際学術誌に投稿した。
②研究分担者の佐藤正幸教授とは、アトラスに関する考察を進めた。成果を論文の形にまとめるまでには至らなかったが、17 世紀の好古学研究における貴重な文献を精査することができた。
③アトラス以外ではとくに 17 世紀の貨幣学(numismatics)に関連する資料の分析を開始した。
④好古学の研究手法の発展に関して、研究協力者である英国スターリング大学アンガス・ヴァイン博士との共同研究を進めた。アーカイブ科学という新たな視点から好古学研究者による資料収集・資料管理を考え、英国における好古学研究の成立をとらえるというヴァイン氏の考察は、綿密な調査によってのみ可能となるものと言える。これについては、2017 年度に実施した国際研究集会においてヴァイン氏が扱ったテーマとして、二か国語で報告書にまとめた。

(3)2019 年度も引き続き英国現地調査、共同研究を行い、国内では勉強会を重ねながら研究を進めた。主な成果はつぎのとおりである。
①5 月に海外研究協力者のアンガス・ヴァイン博士を英国から招聘し、2 度にわたって国際研究集会を開催した。この研究集会では、カムデンとその系譜にある好古学研究者についての世界的な研究の傾向を把握することを主な目的とした。仙台（東北大学）と甲府を会場にして実施したこれら国際集会においては、大学に所属する研究者だけでなく、学生や一般からの参加もあり、自由に意見を交わす有意義な機会となった。具体的には、ヴァイン氏による、ウィリアム・カムデンの研究手法や研究環境に関しての分析を共有することとなり、日本国内では得難い新たな知見を獲得することができた。
②研究集会での議論を基に、科学者であり好古学者のロバート・プロットによる近世英国における地域博物誌の研究を深めることとなった。プロットは日本国内では注目されることがほとんどない人物であるが、オックスフォード大学アシュモリアン博物館の初代館長を務めるなど、17 世紀英国においては著名な科学者であった。プロットは 1670 年代に『オックスフォードシャーの博物誌』および『スタフォードシャーの博物誌』を出版しているが、これら英国初の地域博物誌の誕生の背景を、執筆から出版に至るまでの事情を含めて考察した。さらには、とくに『スタフォードシャーの博物誌』に書かれた事項の具体的な分析を行った。その成果は共著論文にまとめ、学会誌に投稿した。
③歴史補助学に関わる文献資料の収集、精読を継続して実施した。海外共同研究者である英国ヨーク大学グレアム・パリー教授との共同研究において執筆した好古学者ウィリアム・ダグデールについての共著論文が、本研究プロジェクトの成果として国際ジャーナル（*The Seventeenth Century* 電子版）に掲載された。

(4)2020 年度は新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックの影響で、研究が思い通りに進まなくなってしまった。当初は最終年度とするつもりであったが、国際的な共同研究が不可欠である本研究課題の成果のとりまとめに至るにはあまりに困難が大きく、研究期間を延長して時間をかけて課題に取り組むこととなった。成果はつぎのとおりである。
①2020 年度は国際的な研究交流はもちろん、国内での研究活動も予定通り行うことができなかったのであるが、研究グループ内での情報交換をおもにオンラインで継続して行った。また、文献の調査収集とその精読作業を進めることとなった。紋章学、貨幣学に注目しながらイライアス・アシュモールのガーター騎士団の研究を分析し、オンライン学会で成果を発表した。
②研究期間を延長した 2021 年度も、パンデミックの影響が残る特殊な状況下において個別の研究を進めることが中心となっていたが、2022 年にはオンラインで国際研究集会を開催し、共同研究を行う 4 名が講師を務めた。それぞれが新たな視点から研究成果を発表することとなったが、特筆すべきはアンガス・ヴァイン博士から、17 世紀英国の商人で好古学者のロードンファミリーについて最新の研究成果の報告があり、未知の好古学者の活動を知ることになり、非常に意義深い研究交流の機会となった。高野からは、18 世紀のアトラス・地図から、17 世紀好古学の影響を読み取るという研究報告を行い、歴史補助学の観点から好古学研究がいかに後世において展開したかということを例証する新たなアプローチを共有した。
③研究グループに新たな研究分担者として法政大学の曽村充利教授を迎え、17 世紀英国バイオグラフィー・人物研究部分の補強を行うこととなった。
④2017 年度からの研究を締めくくるにあたり、2023 年 5 月の日本英文学会第 95 回大会において、本研究グループの 4 名（佐藤・曽村・Vine・高野）が登壇し、おそらく本邦初の英国好古学・歴史記述をテーマとするシンポジアムを開催することとなった。約半年間の準備を経て、このシンポジウムでは、本研究の特色である、文学研究者と歴史研究者による学際的国際的視点から、17 世紀英国におけるナショナルアイデンティティそしてローカルアイデンティティの探求が、好古学、歴史記述においていかに現れ、展開したのか、具体的な方法を解説し検討を行った。この機会に、本研究課題の成果を国内の多数の英文学研究者に対して公開することができた。
⑤これまでの研究成果を基にした論考をまとめ、国際共著論文として発表していくことを念頭に執筆作業を継続しており、次の段階としては成果をまとめた研究書の出版を目指している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 高野 美千代、佐藤 幸治	４．巻 50
２．論文標題 近世英国における地域博物誌の誕生―ロバート・プロット著『スタフォードシャーの博物誌』の背景と意義―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 英米文化	６．最初と最後の頁 11，29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20802/eibeibunka.50.0_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Parry Graham、Takano Michiyo	４．巻 35
２．論文標題 The illustrations to Dugdale’s History of St Paul’s Cathedral: subscribers and their sentiments	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Seventeenth Century	６．最初と最後の頁 473，495
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/0268117X.2019.1621486	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 高野美千代	４．巻 18
２．論文標題 アシュモールとホラーによるガーター騎士団の記録	５．発行年 2022年
３．雑誌名 山梨国際研究	６．最初と最後の頁 37，48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 曽村充利	４．巻 VIII
２．論文標題 シェイクスピアとアングリカニズムーエリザベス朝英国国教会の包括性および『欽定説教集』に関連させて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 GIS Journal	６．最初と最後の頁 9，88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15002/00026270	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　6件／うち国際学会　7件）

１．発表者名 佐藤正幸 Masayuki Sato
２．発表標題 “Visualization of Historical Time”
３．学会等名 The 3rd INTH network Conference (University of Stockholm, Sweden)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高野美千代
２．発表標題 紋章官Sir William Dugdaleの好古学者的精神
３．学会等名 日本英文学会第95回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 佐藤正幸
２．発表標題 物語としての歴史と年表としての歴史
３．学会等名 日本英文学会第95回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 曽村充利
２．発表標題 Izaak Waltonの_The Lives_とアングリカン的人間像
３．学会等名 日本英文学会第95回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 高野美千代
２．発表標題 The Development of Antiquarian Studies: Atlases and Topography
３．学会等名 Inquiries into and the Establishment of British Identity by William Camden and His Successors（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高野美千代
２．発表標題 ウェンセスラウス・ホラーの版画から読むイライアス・アシュモール著『ガーター騎士団』
３．学会等名 英米文化学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 曽村充利
２．発表標題 英文学とイギリス保守主義の始まり
３．学会等名 法政大学　最終講義
４．発表年 2023年

１．発表者名 佐藤正幸 Masayuki Sato
２．発表標題 “Visualization of Historical Time”
３．学会等名 The 3rd INTH network Conference (University of Stockholm, Sweden)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤正幸 Masayuki Sato
２．発表標題 “Philosophy and Practice of Writing History”
３．学会等名 The ICHTH Workshop meeting (University of Tallinn, Estonia)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤正幸 Masayuki Sato
２．発表標題 “East Asian History of Historiology in Comparative Perspective”
３．学会等名 The NAMO Conference on World Historiography (University of Poznan, Poland)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高野美千代
２．発表標題 Camden and Dugdale: Studying Monumental Inscriptions for Posterity
３．学会等名 William Camden and Early Modern Antiquarianism（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤正幸
２．発表標題 Chrological Writings and Chronological Tables in early Modern Japan 1603-1867
３．学会等名 William Camden and Early Modern Antiquarianism（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 高野美千代
２．発表標題 Elizabethan Antiquaries and the Beginnings of Auxiliary Sciences of History
３．学会等名 中国古代テクスト研究と西欧のフィロロギー（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤正幸
２．発表標題 西洋史学はディシプリンか
３．学会等名 東北大学国際文化研究科学術講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 高野美千代	４．発行年 2022年
２．出版社 ブイツーソリューション	５．総ページ数 188
３．書名 十七世紀の書物の世界	

１．著者名 Jose Rabasa, 佐藤正幸, Edoardo Tortarolo, and Daniel Woolf　編著	４．発行年 2021年
２．出版社 上海三聯書店	５．総ページ数 1032
３．書名 牛津歴史著作史 第3巻	

１．著者名 佐藤正幸（分担執筆pp．85-112）、編著者：荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、冨谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己、吉澤 誠一郎	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 342
３．書名 世界史とは何か	

１．著者名 佐藤正幸　（中国語訳　郭海良）	４．発行年 2019年
２．出版社 上海三聯書店	５．総ページ数 378
３．書名 歴史認識的時空	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「ホモ・ヒストリクスは年を数える」（4）～ストーリーにこだわる文化と年月日にこだわる文化～
https://news.yahoo.co.jp/articles/38a3fb806891d5c250ce1bd618ef4494b7594e0e

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　正幸 (Sato Masayuki) (90126649)	山梨大学・その他部局等・名誉教授 (13501)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	曽村　充利 (Somura Mitsutoshi) (90171397)	法政大学・グローバル教養学部・教授 (32675)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	パリー　グレアム (Parry Graham)	英国ヨーク大学・名誉教授	
研究協力者	ヴァイン　アンガス (Vine Angus)	英国スターリング大学・准教授	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計4件

国際研究集会 William Camden and Early Modern Antiquarianism	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Inquiries into and the Establishment of British Identity by William Camden and His Successors	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Developments in Antiquarian Studies in Early Modern England	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Varieties of Antiquarian Studies in Early Modern England	開催年 2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	ヨーク大学	スターリング大学		
イタリア	東ピエモンテ大学			